



いのちと平和と子どもたち

こでまた おうね

2022.8.3

No.30-15

川口ぞうれっしゃ合唱団

長い戻り梅雨が明け、夏の陽射しとともに、3年ぶりに政府による行動制限がない夏休みがやってきました。でも、コロナ感染者数は最大、世界最多。暗い報道が世の中を覆い、大人もずっと胸がザワザワして不安な日々の中、短い『少年時代』の夏を、どうしたらキラキラさせてあげられるのでしょうか。

『いのちと平和と子どもたち』を胸に、私たちはぞうれっしゃを歌ってきました。この歌を精一杯歌う子どもたちと、この歌を聞いて何か感じてくれる人がいる限り、大丈夫！子どもたちの未来は守れる！と信じたくて、頑張っているのかもしれませんが。いろいろなことで、いのちが、平和が、子どもたちの安寧が脅かされている今、物を言うことさえ難しくなって、大人たちは閉塞感に囚われ、不機嫌になったり、投げやりになったり…。でも、子どもたちはいろんなものを背負いながら、重たいとも言わずにずっと耐えています。漠然とした不安を抱えながら、マスクをつけて夏休みを過ごしています。子どもたちが安全に安心して毎日を過ごせることが平和なら、『戦争を知らない子どもたち』として夏休みを享受して大人になった私たちが今、子どもたちのために何をするべきか……投げやりになっている場合ではないですね。

あ〜、それにしても、今こそ、みんなで大声で、ぞう♪を歌えたらな〜と心から思います。

今年の沖縄全戦没者追悼式で朗読された、徳元穂菜さんの「平和の詩」です。

こわいをして、へいわがわかった

沖縄市立山内小学校2年 徳元穂菜

びじゅつかんへお出かけ

おじいちゃんや

おばあちゃんも

いっしょに

みんなでお出かけ

うれしいな

こわいよ

かなしいよ

かわいそうだよ

せんそうのはんたいはなに？

へいわ？

へいわってなに？

こわくてかなしい絵だった

たかさんの人がしんでいた

小さな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまや

チヨウチヨの絵もあつたけど

とてもかなしい絵だった

きゆうにこわくなって

おかあさんにくつついた

あたたかくてほっとした

これがへいわなのかな

おねえちゃんけんかした

おかあさんは、二人の話を聞いてくれた

そして仲なおり

これがへいわなのかな

せんそうがこわいから

へいわをつかみたい

ずっとポケットにいれてもっておく

ぜったいおとさないように

なくさないように

わすれないように

こわいをして、へいわがわかった

かなしそうに見ている

わたしとおなじ年の子どもが

ガイコツもあつた

たかさんの人たちがしんできて

七十七年前のおきなわの絵だと言った